

6章 ネットワークの必要性

子ども虐待の事例は複雑・多様な問題を抱えていることが多く、その解決には、一機関や一個人では限界があります。各関係機関が連携し対応する必要があり、各機関がそれぞれ何をするか、どう連携するか、どう子どもを援助していくかなど速やかにかつ効果的な対応が求められています。

このため、保護者や子どもに身近に接する地域においてネットワークをつくり、普段から情報交換を行うとともに、お互いの機関の役割や機能を理解すること、子ども虐待を理解すること、ケースへの対応や予防・発見の方法、介入やケアの現状等を話し合うことが大切です。

ネットワークとは、さまざまな機関や人が、縦横につながってネット(網)をつくり活動していくことです。ネットをつくって活動することで、個々の機関や人の機能が有機的に連携し、個々別々に活動するより大きな効果を発揮することが可能になります。

ネットワークを設置することのメリットは次のようにまとめられます。

- ① 情報を一カ所(事務局)に集約できる体制が整い、迅速な対応ができる。
- ② 早い段階で関係機関の連携が図れるため、虐待を未然に防止できる上、虐待の重症化を防ぐことができる。
- ③ 情報を共有することで、問題の整理と適切な援助方策の検討ができる。
- ④ 多機関が集まることで、ケースに対する多面的な理解が可能となる。
- ⑤ グループ内で守秘義務を守ることとなり、ひとつの機関や個人で抱え込むことが防げる。
- ⑥ 関係機関の役割が明確になり、重複した対応の整理が図られるほか、方針の食い違いも修正できることから、効率的な支援が可能となる。よって、地域での見守り体制が整い、家族の再統合のための援助がしやすい。
- ⑦ 具体的支援の効果の確認などをおして、各機関のノウハウが蓄積できる。
- ⑧ 各関係機関が組織としての連携が図られ、担当者の異動などがあっても継続し一環した対応が可能となる。

